

Japanese Institute of Landscape Architecture

学会広報

平成十八年二月十四日発行

第17巻・第4号

第9回 日・韓・中国際ランドスケープ専門家会議及びシンポジウム開催案内	1
第3回公園管理運営フォーラム案内	2
花と緑のおおさか国際シンポジウム案内	3
日本造園学会関東支部例会 海外の日本庭園シンポジウム	
—海を渡った日本庭園のこれまでとこれから—	4
「海外の日本庭園」調査報告書 頒布のお知らせ	5
文献紹介	6
平成17年度九州支部大会研究・事例報告会抄録	12

〈編集〉(社)日本造園学会事務局

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館6F

TEL 03-5459-0515、FAX 03-5459-0516

第9回 日・韓・中国際ランドスケープ専門家会議及び シンポジウム開催要項／論文募集／学生フォーラム参加募集

日本造園学会、韓国造景学会、中国風景園林学会は親愛なる協力体制のもとに第9回日韓中造園専門家会議を、2006年8月28日～30日に日本造園学会九州支部と共同開催で長崎市にて実施することになりました。

1. テーマ：東アジアの造園文化の普遍性と独自性

The Universality and Reginality of Landscape Culture in East Asian Region

サブテーマ：

①地域固有の造園文化

Vernacular Landscape Culture

②アジアの交流における造園の普遍性

Universality of Landscape Architecture in East Asian Region and Cross-fertilization

③造園と自然・文化・人間の共生

Symbiosis of Nature, Culture and Human, and Landscape

2. 日程（詳細は後日お知らせします）

2006年8月28日 開会式・サブテーマスピーチ

29日 学生フォーラム／基調講演・シンポジウム／交流会

30日 見学会（長崎市内その他） および 九州支部大会（総会・発表会）

3. 開催地 長崎市 長崎ブリックホール

4. 主 催 日本造園学会、韓国造景学会、中国風景園林学会、日本造園学会九州支部

例年のように日韓中専門家会議の発表論文等を募集しますが、応募要項は次号のランドスケープ研究に掲載する予定です。なお、昨年度の執筆要領は下記の通りで、ご参照し、準備ください。

参考：論文執筆要領

1. 原稿の形式

1) 原稿のページ数はA4サイズ4ないし6ページとする。原則として、マイクロソフトワード2000（イングリッシュ）を用いて作成する。

2) 1ページ40行、フォントはTimes New Roman、サイズは表題12ポイント、著者の氏名・所属は11ポイント、キーワードは10ポイント（イタリック）、アブストラクト及び本文は10ポイントとする。

尚、表題・著者名・著者所属は、中央揃えとする。

3) レイアウトは、上下マージン30mm、左右マージン30mmとする。

4) 図表等については、割付けて、その位置に貼り付ける。

2. 論文の構成

論文構成は、次の順序とする。①表題、②著者名、③著者所属、④アブストラクト（400～500ワード）、⑤キーワード（5ワード）、⑥本文、⑦補注・文献等とする。

*「謝辞」は投稿時には記入せず、本原稿（校閲後の最終原稿）に記載する。

3. 補注・文献等の記載形式

補注・文献等は、次の表記方式を参考にする。

Suzuki, T. (1995) A study on historical Japanese gardens, Journal of the Japanese institute of Landscape Architecture 58 (5), 1001-1004.

Suzuki, T. and Y. Tanaka (1996) Contemporary Japanese Architecture, pp.1-40, Zoen-shuppan, Tokyo.

Suzuki, et al. (1994) The future of Japanese Landscape. In Modern Landscapes of Japan (Y. Tanaka, ed.), pp.100-150, Engei-sha, Tokyo.

4. 投稿時の提出物

投稿にあたり提出するものは、論文（図、表、写真を含む）コピー3部とする。なお、事故にそなえて原文をとっておいて下さい。

5. 日本語原稿

論文集への掲載が決定した後、発表者については、論文の日本語訳を提出して頂きます。提出の期日、書式については、校閲後に通知します。

6. 論文手数料

論文手数料として、論文1件につき、10000円を徴収します。これは、校閲から論文集掲載までの手数料となりますので、論文集への掲載が決定しましたら、郵便振替にて送金して下さい。

7. 印刷原稿の提出

論文集への掲載が決定した論文は、印刷原稿として、論文受理通知が届いた後、定める期日までに原文(図表等を貼付けたもの)およびフロッピーディスクに保存したものを提出していただきます。図・写真等の保存は400dpiとする。なお、原稿提出がないときは論文集に掲載しません。

8. その他

文法上のチェックは完了させておくこと

(1) 提出論文は主催者内に設置される校閲委員会において校閲を済ませたもののみを受け付けます。

(2) 提出物

○テキストのファイル、ハードコピー(郵送)

○送り先 日本造園学会事務局

○著者の自宅、勤務先の住所、FAX番号、メールアドレスを明記して下さい。

上記のような内容で行われますので、論文投稿希望者はアブストラクトを学会事務局まで期日までに、メール、FAXにて提出して下さい。尚、連絡等は下記までお願いします。

日本造園学会事務局 松崎順郎宛

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館6F

TEL: 03-5459-0515 FAX: 03-5459-0516 E-mail: staff@landscapearchitecture.or.jp

第3回公園管理運営フォーラムの開催について

テーマ「マネジメント時代の公園管理運営技術とは」

公園管理フォーラムは、公園管理実務者が、各地での実践事例を発表し、互いに公園現場の今について情報や意見交換を行う公開研究会です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

また、事例発表もあわせて募集いたします。

■日時：平成18年2月24日(金) 10:30~17:00

■場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟

■定員：300名(先着順)

■プログラム：

<http://www.prfj.or.jp/2006forum/index.html>

■参加費：2,000円(参加費1,000円+資料代1,000円)

■参加申込み方法：E-mailまたはFAXにて下記事項を記入の上お申込ください。・氏名・所属(会社名・学校名・団体名など)・参加人数・住所・電話番号FAX番号・分科会への参加(第1分科会、第2分科会、第3分科会のいずれかをご記入ください)

■参加申込み先：公園管理運営フォーラム事務局

E-Mail forum@prfj.or.jp

FAX 03-3436-4548

※皆様の個人情報は、公園管理運営フォーラムのご案内以外には使用せず、当財団の個人情報保護方針に則り細心の注意を払い、厳重に管理いたします。

■主催：財団法人公園緑地管理財団

■後援：社団法人日本公園緑地協会 社団法人日本造園学会

■問い合わせ先：財団法人公園緑地管理財団 調査部 森 難波 forum@prfj.or.jp

花の万博から15年「花と緑のおおさか国際シンポジウム」の開催

財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、花の万博の開催（1990年）から15年を機に、「花と緑が彩るライフスタイル」をテーマに国際シンポジウムを開催し、参加者を募集します。今回のシンポジウムは、花博が大阪を始め我が国の花と緑あふれるまちづくりに与えた影響について紹介し、第23回全国都市緑化おおさかフェアの開催に伴い、アジア・オセアニア地域における最新情報を交えつつ、花と緑をはぐくむ文化について議論します。学会会員の皆様のご参加をお願いいたします。

【開催概要】

1. 日 時：平成18年3月26日（日）13：30～16：30〔受付13：00〕
2. 会 場：大阪歴史博物館 講堂
大阪市中央区大手前4丁目1-32〔大阪市営地下鉄「谷町四丁目」駅下車〕
3. テーマ：「花と緑が彩るライフスタイル～花博が創るもの～」
4. 内 容：
 - ①基調講演（13：40）
テーマ：「花と緑の文化に着目したまちづくり」
講演者：デイビット・オーデイス氏（Mr. David Aldous, メルボルン大学 教授）
 - ②総合討論（14：45）
コーディネーター：須磨 佳津江氏（キャスター・ジャーナリスト）
パネリスト： プラサート・アヌパン氏（Mr. Prasert Anupunt, タイ王国国際園芸博 上席顧問）
増田 昇氏（大阪府立大学大学院 教授）
長村智司氏（大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長）
遠藤尚美氏（フロリスケープディレクター）
5. 対 象：一般 250名（参加無料。先着順、後日参加証を送付します）
6. 申込方法：
 - ①国際シンポジウム ②氏名（ふりがな）③年齢 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号を明記の上、協会「国際シンポジウム」係まで申し込み。
◆はがき〔〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-136（財）国際花と緑の博覧会記念協会〕
◆F A X〔06-6915-4524〕
◆インターネット〔HP：http://www.expo90.jp/ E-MAIL:kikaku-15@expo90.jp〕
7. 基本構成：

主催：財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
共催：第23回全国都市緑化おおさかフェア実行委員会
後援：農林水産省、国土交通省、大阪府、大阪市、（財）都市緑化基金、
（社）日本造園学会、園芸学会、NHK大阪放送局、朝日新聞社、
毎日新聞社、読売新聞大阪本社、産業経済新聞社、日本経済新聞社〔予定〕

日本造園学会関東支部例会

海外の日本庭園シンポジウム 海を渡った日本庭園のこれまでとこれから

日 時：2006年3月15日（水）18：00～20：30

会 場：東京農業大学世田谷キャンパス1号館4階メディアホール

■ 開催趣旨

社日本造園学会において過去6年にわたり調査してきた、「海外の日本庭園」に関する調査報告書が完成した。この報告書の内容にもとづき、これまで海外に造られてきた日本庭園の歴史と現状を報告・検討しつつ、日本庭園による国際社会における文化交流の将来を展望する。

■ プログラム（案）

- 18：00 開催趣旨 大貫誠二（財団法人都市緑化基金）
- 18：10 海を渡った日本庭園 - 海外の日本庭園の歴史
鈴木 誠（東京農業大学）
- 18：50 世界に広がる日本庭園 - 海外の日本庭園の現状
鹿野陽子（東京大学）
- 19：10 交流と交友の証となる日本庭園 - 日本庭園を通じた海外交流
赤坂 信（千葉大学）
- 19：30 海外での日本庭園づくり - 計画・設計・施工・管理の課題
大平 暁（箱根植木株式会社）
- 19：50 質疑とまとめ
- 20：30 閉会

■主 催：社日本造園学会関東支部／社日本造園学会「海外の日本庭園」調査・刊行準備委員会

■協 賛：財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

■後 援：財都市緑化基金，社ランドスケープコンサルタンツ協会，ほか（予定）

■申込み：不要。当日直接会場にお越しください。

■参加費：無料。ただし資料代実費。

※当日会場にて「海外の日本庭園」調査報告書の頒布（有償）いたします。

「海外の日本庭園」調査報告書 頒布のお知らせ

標記報告書の頒布を致します。ご希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

本報告書は本学会内に設置された「海外の日本庭園」調査・刊行準備委員会が、平成13（2001）年度から作業を開始し4年以上の月日をかけてとりまとめたものである。

調査・刊行の目的は、海外の日本庭園の全体像と、その成立過程を整理し時代の記録とすること。そして、海外に日本庭園を造ってきた人々の知恵や、抱えた課題を、今後21世紀における日本の造園の海外飛躍への糧とすること、また、海外の日本庭園を良好な状態で継承していくための指針とすることである。

体裁：A4、本文41ページ、事例庭園90（見開き2ページ）、総覧リスト15ページ

目次：Ⅰ海外につくられた日本庭園の系譜、Ⅱ海外の日本庭園：分布と傾向、Ⅲ海外の日本庭園：意義と役割【①国際博覧会と日本庭園、②姉妹都市と日本庭園、③大使館文化会館の日本庭園、④公園・植物園・美術館のなかの日本庭園】、Ⅳ海外の日本庭園づくり【①計画と設計に関して、②施工に関して、③維持管理に関して―1、④維持管理に関して―2】、Ⅴ海外の日本庭園－現状と課題（座談会記録）、海外の日本庭園事例90、総覧リスト

頒布価格：カラー印刷版	会員価格	1冊	8,000円（送料共8,500円）
	非会員価格	1冊	9,000円（送料共9,500円）
白黒印刷版	会員価格	1冊	2,500円（送料共3,000円）
	非会員価格	1冊	3,500円（送料共4,000円）

申込方法：下記添付の要領でE-mailまたは、FAXにより学会事務局に2月末日までにお申し込み下さい。

日本造園学会事務局

E-mail：staff@landscapearchitecture.or.jp FAX：03-5459-0516

.....申込書【E-mailまたはFAXでお申し込み下さい】.....

「海外の日本庭園」調査報告書 カラー版（ ）冊 白黒版（ ）冊

合計金額（送料共） _____ 円

(1) 氏名： _____

(2) 郵送先：〒 _____

(3) 連絡先：TEL： _____ FAX： _____

(4) 代金支払方法：a) 郵便振替

b) 銀行振込

都市計画 (通巻257号) 平成17年10月

〒102-0082 東京都千代田区一番町10番地
 一番町ウエストビル 6階
 (社)日本都市計画学会
 TEL 03-3261-5407 FAX 03-3261-1874

特集1：都市づくりを揺るがす消費	
特集2：都市計画研究の現状と展望	
巻頭言 苟日新、日日新、又日新	西尾武喜 3
特集論文1	
「都市づくりを揺るがす消費」の編集にあたって	安部文洋 4
消費行動と都市づくり	清水義次 5
商業の変化とあるべき都市づくり	横森豊雄 9
繁華街にみる近代の消費空間と都市づくり	初田 亨 14
物資流動調査からみた都市の消費生活の実態	
苦瀬博仁・兵藤哲朗・田宮佳代子	18
消費者買物行動における地元回帰の動き	岩崎邦彦 22
商業者の目線で実行するまちづくり「商店街に いま必要な政策理念」	加藤 博 25
ショッピングセンター事業ディベロッパーが展 望する都市生活の姿	望月康博 29
TOKYOにおける市場トレンドー“まち・みせ ・ひと”から見えてくる消費市場	川島蓉子 33
デジタル・ネットワークで変わる生活者とまち づくりの視点	秋元真理子 37
開発における異なる文化： 英国マンチェスターの再生における独立系ディ ベロッパーの役割	サイモン・ガイ 39
上海の商業施設開発と街づくり	新田恵一・牧野暁輝 46
商業の変化とあるべき都市づくり	森永卓郎 51
特集論文2 都市計画研究の現状と展望	52
土地利用	齊藤充弘 都市開発 吉田友彦
交通	室町泰徳 緑地・環境 笹谷康之
住宅・土地	野嶋慎二 都市解析・都市情報 三浦英俊
国土政策・地域開発	出口 敦 海外 浅野 聡
プロジェクトノート	
蘇我臨海地域の整備 ～蘇我特定地区のまちづく り～	千葉市都市局都市部臨海地域再整備課 90
教育・文化都市としての中心市街地の再生に向 けて ～ふくしまスチューデント・シティの取 組み～	福島県商業まちづくりグループ 92

都市計画行政の最近の動き

社会資本整備審議会都市計画部会中心市街地再 生小委員会における検討の論点について	東 智徳 94
多摩地域における都市計画道路の整備方針「中 間のまとめ」の公表について	邊見隆士・安間三千雄 96
[海外報告] 英国 (イングランド地方) における 都市計画体系の変化	藤岡啓太郎・平見憲司・高橋勝美・山口行一 98
海外特派員だより	
ハンブルク：BID方式による商店街活性化	春日井道彦 106
ローカルコミュニティvs.ウォールマート(2)： Local Communityの大型小売店舗企業への対応	井関博之 107
上海蘇州河における都市河川の環境改善	本田恵理 108

芝草研究 (第34巻第1号) 2005年10月

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
 植調会館内
 日本芝草学会
 TEL 03-3834-6385

研究論文	
Callus induction and plant regeneraion from seed and shoot tip explants of <i>Zoysia minima</i> collected from New Zealand	Anurug Poeaim, Yasushi Matsuda and Tatsuro Murata 1
シバオサゾウムシ 成虫に対するJH処理の影響 に関する研究	廣森 創・富山佳織里・小笠原紀征・ 柳沼 大・廿日出正美 8
短報	
<i>Zoysia</i> 属芝草の茎葉奇形とその起因と思われる シバオソヒメハダニについて	赤嶺 光・川本康博・石嶺行男・倉持仁志 12
クリーピングベントグラスおよびケンタッキー ブルーグラスに対するプロヘキサジオン-Ca塩 の耐乾性付与効果	大塚知子・伊織新一・小笠原勝 15
実用記事	
現場における芝用殺菌剤の迅速・簡易防除試験法	

資料	一谷多喜郎・宮島葉子	18	緑一声・水とみどりの財産づくり	潮谷義子	2
農業の安全と安心-科学的な理解のために			記念講演/森林療法の可能性と課題	上原 巖	4
	梅津憲治	23	第24回「工場緑化推進全国大会」開かれる		13
「特定外来生物被害防止法」の問題点と緑地・芝生地における植生管理の在り方	縣 和一	34	開会のあいさつ	上島重二	14
公園緑地における芝生地の現状と展望			祝辞	中川昭一	15
	飯塚克身	40	体験発表/経済産業大臣表彰工場		
日本芝草学会2005年度春季大会	ゴルフ場部会		緑の中の公園工場		
記録 今、ゴルフ場実務者が求める芝草研究			三菱電機(株)パワーデバイス製作所熊本工場	18	
	山田孝雄	48	体験発表/日本緑化センター会長表彰工場		
日本芝草学会2005年度春季大会	校庭芝生部会		水と緑と建物の調和	太陽誘電(株)R&Dセンター	23
記録 校庭芝生部会の活動について	藤崎健一郎	52	森の工場を目指すバイオニア淡路工場		
報告				石井健雄	34
日本芝草学会2005年度春季大会	飯塚克身	54	3年たった森の工場、サンデン赤城事業所		
日本芝草学会賞受賞者紹介	村岡洋次	58	根の系譜〈2〉竹林の根茎と白兎漂流説話	高田浩一	36
追悼				菊住 昇	38
本多 侖先生を悼む	北村文雄	59	第29回全国育樹祭・兵庫県で開催		43
			平成17年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰		
			・その2		44
グリーン・エージ 2005/10月号 No.382号			森林総合研究所創立百周年記念		45
	〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13				
	(財)日本緑化センター				
	TEL 03-3585-3561				
緑一声・自然再生の目標	進士五十八	2	公園緑地 Sept.2005 VOL.66 No.3		
自然再生の望ましい展開	亀山 章	4	〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-16		
自然再生技術の適正化の方向	森本幸裕	8	平河中央ビル 6 F		
自然再生の現場における問題点と課題			(社)日本公園緑地協会		
	養父志乃夫	12	TEL 03-3265-8551(代)		
自然再生の動向	国土交通省緑地環境推進室	16	テーマ 地球環境時代の緑のまちづくり		
ランドスケープ・コンサルタンツから見た自然再生の課題	高橋信行ほか	23	巻頭言 地球環境時代の緑のまちづくり		
造園建設業から見た自然再生の課題	山田勝巳	30		森島昭夫	2
森林文化の風景〈10〉			随想 私にできること	梅沢由香里	4
独塊における林政学説の歩み(寸描)	筒井迪夫	34	基調報告 環境の世紀における公園緑地の取組		
読者の広場			-「京都議定書目標達成計画」等を受けて-		
「モットイナイで地球は緑になる」を読んで			国土交通省都市・地域整備局		
	八重樫良輝	36	公園緑地課緑地環境推進室	6	
第7回「樹木と緑化の総合技術講座」無事修了		38	論説		
平成17年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰			1. 自然と共生する流域型都市再生への道	岸 由二	19
・その1		40	2. 環境の時代の緑地保全と緑化推進 -緑を「活かす」「誘導」施策の展開による所有地の緑の保全・創出の促進-	平田富士男	23
学校の屋外環境づくり推進研究会		44	3. 地球環境問題の解決に向けた環境学習の重要性~環境学習の推進と公園緑地の可能性~	岡島成行	29
			4. 環境時代の都市と緑	勝野武彦	32
グリーン・エージ 2005/11月号 No.382号					

事例紹介

- ①良好な景観の形成と都市環境改善に向けて
－緑陰道路プロジェクト－
国土交通省道路局地方道・環境課
道路環境調査室 37
- ②「ISO14001」と緑のまちづくり－上越市の
取り組み－ 上越市都市整備部都市計画課 40
- ③貴重な財産を後世に～京都府京丹後市、「琴引
浜の鳴り砂を守る会」の保全活動から～
京丹後市生活環境部環境推進課 45
- ④まちの中に森を創ろう！－市民の手による
「100年の森づくり」－
NPO法人緑のまちづくり交流協会 51
- ⑤社会・環境に貢献する企業の緑地保全・創出
活動－社会・環境貢献緑地評価システムSE
GES（ジージェス）の発足－
（財）都市緑化基金 58
- ⑥学校ビオトープと緑のまちづくり
（財）日本生態系協会 62
- ⑦環境に配慮した都市公園の管理運営の実践
－新潟県都市緑花センターの取り組み－
（財）新潟県都市緑花センター 65
- 特別寄稿
- ①子供たちの夢～緑の芝生でスポーツを～の
実現へ 森 健児 69
- ②キャッチボールのできる公園づくり
涌井史郎（雅之） 72
- 調査研究情報
- ①壁面緑化による建物外部の温熱環境改善効果
鈴木弘孝 76
- ②大阪府「駐車場の芝生化実証調査」について
大阪府環境農林水産部みどり・
都市環境室自然みどり課 81
- TOPICS
- 第22回全国都市緑化ふくおかフェア「アイラン
ド花どんたく」について
第22回全国都市緑化ふくおかフェア実行委員会 84
- まち・みどりの話題
アンデルセン生誕200年記念イベント開催中
－ふなばしアンデルセン公園－
（財）船橋市公園協会 87
- 行政資料
- ①全国屋上緑化施工面積調査について－屋上緑

化空間は近年どの程度創出されているか－

- 国土交通省都市・地域整備局
公園緑地課緑地環境推進室 89
- ②2005年日本国際博覧会（愛・地球博）で実施
している大規模壁面緑化（バイオラング）の効
果測定実験について～ヒートアイランド現象の
緩和に効果を確認～
国土交通省都市・地域整備局公園緑地課
緑地環境推進室
国土技術政策総合研究所
環境研究部緑化生態研究室 92
- ③緑による建築・街区空間の熱環境改善効果に
ついて～ヒートアイランド現象の緩和をめざ
して～ 国土交通省都市・地域整備局
公園緑地課緑地環境推進室 96
- ④都市の緑量と心理的効果の相関関係の社会実
験調査について～真夏日の不快感を緩和する
都市の緑の景観・心理効果について～
国土交通省都市・地域整備局
公園緑地課緑地環境推進室 103

公園緑地 Oct.2005 VOL.66 No.4

テーマ 防災対策と公園緑地

- 巻頭言 防災と公園緑地 北側一雄 2
- 随想 『大地震 その時』 大桃美代子 4
- 特別寄稿 緑資源としての森林の再生
伊藤 滋 6

論説

1. 「災害列島」日本と減災戦略
河田恵昭 8
2. 津波減災のための植生帯の利用
今村文彦・柳澤英明 12
3. 時代とともに変化する「避難」の考え方
林 春男 18
4. 防災に資する緑とオープンスペースの政策
論
越澤 明 21

事例紹介

- ①新潟県中越地震と公園緑地～震災時に都市
公園が果たした役割と今後の課題～
新潟県 土木部都市局都市整備課 27
- ②福岡県西方沖地震における国営海の中道海浜
公園の被災と復旧

国土交通省九州地方整備局

国営海の中道海浜公園事務所	30	海外の公園事情	
③国営東京臨海広域防災公園について		⑳チリ「パイネ国立公園」	城殿 博 20
国土交通省関東地方整備局		国立公園から	
国営昭和記念公園事務所	34	第26回・石鎚国立公園「石鎚山・自然保護と山岳信仰の山」	谷川昭司 22
④防災公園ネットワークの推進－東京都の取り組み－	東京都建設局公園緑地部計画課 38	連載インタビュー	
⑤津波対策と防潮林		レンジャーOB 澤田栄介氏に聞く(8) (阿蘇篇)	24
陸前高田市建設部都市計画課	44		
海外情報		国立公園 2005年11月号 No.638	
スマトラ島沖地震・津波被害に対するタイ国における我が国の支援について	奥田謁夫 48	巻頭エッセイ (第29回)	
調査研究情報 今、博物館がおもしろい		池にはピラニア空にはインコ	中島誠之助 2
兵庫県立人と自然の博物館	52	特集：野焼きと草原管理	
TOPICS		半自然草原の現状と保全への取り組み	高橋佳孝 4
2005年花の万博記念「コスモス国際賞」受賞者の決定	(財)国際花と緑の博覧会記念協会 56	ファイアーエコロジー (火生態学) と植生管理	
まち・みどりの話題		阿蘇千年の草原再生を巡る近況	山内康二 12
①“かくれんぼの町”に遊びに来ませんか?	全日本かくれんぼ協会 58	スイスにおける草原管理	町田怜子 14
②日比谷公園から始まった東京モーターショー	(社)日本自動車工業会 61	「野焼きと草原」サミット・シンポジウムの歴史	瀬田信哉 16
行政資料		第7回全国草原サミット・シンポジウムin大山蒜山開催について	徳永 巧 17
①平成18年度都市公園・緑地保全等事業予算概算要求の概要について	国土交通省都市・地域整備局公園緑地課 65	海外の公園事情	
②平成16年度末都市公園等整備の現況について (速報)	国土交通省都市・地域整備局公園緑地課 74	⑳米国の国立公園における自然資源管理 (前編)	鈴木 渉 18
国立公園 2005年10月号 No.637		国立公園から	
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1		第27回・日南海岸「指定50年を迎えた日南海岸国立公園」	服部文明 22
(財)国立公園協会		連載インタビュー	
TEL 03-3502-0488		レンジャーOB 澤田栄介氏に聞く(9) (瀬戸内篇)	24
巻頭エッセイ (第28回)		国立公園 2005年12月号 No.639	
エコライン飛騨	稲本 正 2	巻頭エッセイ (第30回)	
特集：博物館とわたし		ダイネーセンと野鳥の森	加藤幸子 2
「ファール昆虫館」の建設	奥本大三郎 4	自然公園の適正管理と整備等に要望書提出	4
動物園と博物館、そして自然	中川志郎 8	特集：地域と国立公園	
博物館と「物」の関係性	津田雅人 12	「地域」が支える「国立公園」	
国立公園50年の履歴	瀬田信哉 16	－日本の国立公園制度の「本当の姿」と「発展可能性の在りか」を探る	加藤峰夫 6
海外の公園事情 (予告編)		北海道内の観光協会のみる自然公園	河本晃利 10
米国の国立公園における自然資源管理	鈴木 渉 18	白山国立公園での取り組みについて	加藤雅寛 14
		海外の公園事情	
		㉑米国の国立公園における自然資源管理 (後編)	

	鈴木 渉	18	地球時代の視点から 林造園(株)・田島ルーフィング(株)	48
国定公園から 第28回・耶馬日田英彦山「英彦山ブナ林再生の 取組みについて」	奈須鉄也	22	新・都市探訪 横浜市	
連載インタビュー レンジャーOB 澤田栄介氏に聞く(最終回) (新宿御苑篇)		24	アメリカ山立体都市公園事業について	50
都市緑化技術 (No.57) 2005.SPRING			都市緑化技術 (No.58) 2005.WINTER	
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目21番8号 秀和第三虎ノ門ビル3F (財)都市緑化技術開発機構 TEL 03-3593-9351			都市緑化植物図譜② 蜜をもたらす森の胡蝶 -エウクリフィア-	3
			都市緑化技術グラフィティ 地震災害後の様子 花を飾ろう 実のなる木	4
都市緑化植物図譜② 南極を歩き交った篝火 -エンボスリウム-		3	巻頭言 地震災害と公園-空間は老朽化しない-	5
都市緑化技術グラフィティ 壁面緑化部の赤外線熱画像 花を飾ろう 自然のちから 巻頭言		4	特集 防災公園とまちづくり 防災公園整備による都市の防災対策の推進	6
環境の時代を迎えての愛・地球博 中村利雄		5	浦田啓充	6
特集 愛・地球博のバイオラング壁面緑化技術 愛・地球博におけるバイオラングの誕生につ いて 涌井史郎		6	これからの都市防災のありかたと防災まちづく りの指針	
バイオラングと建築物緑化の展開について 栗生 明		9	国土交通省都市・地域整備局 まちづくり推進課都市防災対策室	12
バイオラングに見る壁面緑化植物 飯島健太郎		12	新潟県中越地震復興に向けて 平井邦彦	17
壁面緑化による暑熱環境改善効果の実証 松江正彦		17	災害時における大規模公園の実際~国営越後丘 陵公園の新潟県中越地震での取り組み~	20
愛・地球博とバイオラング事業について 町田 誠		19	手代木純・山村尚志・稲川 貢	25
バイオラングの緑化技術 (財)都市緑化技術開発機構		21	スマトラ沖地震津波について 中村徹立	25
壁面緑化の現状と今後の展開について 近藤三雄		33	創造的復興に向けたこれまでの歩み-減災社会 に向けて-	29
投稿 アメリカ合衆国における屋上緑化の取り組みに ついて-イリノイ州シカゴ、オレゴン州ポート ランド- 永瀬彩子		37	兵庫県企画管理部災害対策局災害対策課	29
みどり人間 大橋尚美		43	台湾の震災復興とオープンスペース 楊 舒淇	36
最前線技術レポート 環境モニタリング植物の開発 戸上純一・奥原宏明・田中良和		44	防災公園技術の動向 防災公園技術普及推進共同研究会 施設づくり部会	40
まちの話題ウォッチング 環境にいい学校づくり 水俣市		46	防災公園技術普及推進共同研究会の活動成果 佐藤岳三	46
			技術開発基金による調査研究助成① 林床日照条件から見た雑木林の生物学的多様性 池田貴昭	50
			技術開発基金による調査研究助成② さいたま新都心のけやきひろばの経済評価に関 する研究 菊池佐智子	52
			みどり人間 松原秀也	55
			新・都市探訪 武蔵野市 事業連携と住民との協働による緑のまちづくり	56
			最前線技術レポート	

防災拠点の耐震補強技術：パラレル構法－眺望 ・通風・採光を確保した新しい外部耐震補強－ 工藤利昭	58
まちの話題ウォッチング 公園管理に民間人起用－柔軟な発想でより高い サービスを－ （助）東京都公園協会	60
地球時代の視点から （株）土井製作所、日本技術開発（株）	62
道路と自然 平成17年秋号 第129号第33巻第1号 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-7-4 明産富士ビル4F （社）道路緑化保全協会 TEL 03-3504-0311	
論説 成熟時代の道路：その緑の意味 中瀬 勲	2
特集	
「景観形成ガイドライン」と関連事業	5
道路デザイン指針（案）について 横田敏幸	6
景観形成ガイドライン「都市整備に関する事業」 （案）について 佐藤哲也	9
シーニックバイウエイ北海道について 和泉晶裕	12
山形河川国道事務所における道路景観整備につ いて 高村裕平	15
心に映る道の風景 成熟した高速道路の風景－景観から風景へ 山本正之	18
緑化紹介	
【日本編】第3回菊池道路環境賞の対象道路にお ける景観づくり	
パークロードの緑化と景観形成 岡崎光央	20
沖縄自動車道 那覇IC～許田IC 松井秀誠	22
研究紹介	
都市域における道路およびその周辺の緑化が生 態的ネットワークに果たす役割についての調査 研究 一ノ瀬友博	26
海外レポート ミャンマーの人々の生活と緑 齊藤 恵	30
ニュープランツ イトスキ／ステルンベルギア 川上幸男	34
みちくさ	36
寄稿 植物発生材の蒸煮爆砕処理による循環利 用の可能性 村上圭一	38

1. 希少種ゲンカイワレンゲの生育地保全に向けた生態学的研究

岩本辰一郎 (エコプラン研究所)

大澤啓志 (慶應義塾大学総合政策学部)

本研究では、福岡県のゲンカイワレンゲの基礎的な生態を把握することを目的として、対象地小島における本種の分析状況及びその結果から調査地点を8箇所設けて調査を行った。調査の結果、本種は主に島上部の林内ではほとんど確認されず、陽光の南壁面の僅かな土壌上のみ、群落を形成していた。南壁面の積算日射量は北壁面より全般に高く、この高い日射量が本種の生育上重要になっていることが示唆された。また、本種が生育する南壁面は壁面の崩壊が著しく、マサキ・トベラ群集の成立が抑えられる反面、土壌も乏しく各地点の種数・植被率は共に低かった。そのような環境下では本種はほぼ単一あるいはツル性植物と共に中程度の被度を占めていた。以上、本種は土壌が乏しい劣悪な環境下に適応することで、他植物の強度の被覆を逃れ、陽光の岩壁面で生育を維持していると考えられる。

2. ヤシオオオサゾウムシ被害樹 (フェニックス) の回復について

服部雅樹 (中村園芸場)

宮崎県においてはヤシオオオサゾウムシによるフェニックスの食害が蔓延している。個人所有の被害木における回復の可能性を考慮して伐採処理を行わず駆除を行った。処置の8カ月後の翌年の春に新葉の展開が見られ、約2年後には健全木に近い形で樹形の回復が見られた。この結果から定期的な樹形観察を行い、食害の初期に処置を行えば回復の見込みがあり、予防を目的とした化学的防除を軽減させることが可能となることが示唆された。

3. 建替団地における既存樹木の移植の活着と樹形回復

小木曾 裕 (独立行政法人都市再生機構)

移植樹木が何年で本来の樹形に回復するかを把握し、今後の移植設計の方向性を見出すことを目的とした。東京都内の機構建替・新規団地の256本を対象とした。その結果、既存樹木は大木や針葉樹やサクラなど通常移植が難しいといわれる樹木を含め、全移植樹の90%以上が活着していることがわかった。ここでは、樹種や形状の違いは活着には大きな影響はなかった。樹種や剪定の影響によってばらつ

きはあるが、移植してから概ね4～5年で移植前の樹形に回復することがわかった。移植活着の科学的解明は様々な要素が複雑に絡み合っているが、サンプル数を増やすことにより実務に役立つ結果を生み出すことができると考える。

4. 小国町における森林植生の実状と課題

梶原領太 (九州大学大学院芸術工学府)

重松敏則・朝廣和夫

(九州大学大学院芸術工学研究院)

我が国の森林の多くは、戦後の拡大造林政策によって植えられた針葉樹林で構成されている。現在、このような針葉樹林は海外からの安価な材木の輸入に圧迫され、本来の経済林としての価値が低下したばかりでなく、それに起因する管理放棄によって種の多様性や水源涵養機能、防災機能、美しい景観などの多面的機能が失われつつあることが指摘されている。著者らは、平成16年より林業地帯として知られる熊本県小国町において、里山景観の保全活用をテーマに調査・研究を進めている。本研究では、森林簿データから小国町全体の現在の土地利用状況を把握し、航空写真判読から特定地区における現在の土地利用図、樹冠直径階別分布図を作成し、小国町とその特定地区における里山景観の特性と問題点を明らかにすることを目的とした。

5. 福岡市水道局の水源かん養林整備の取り組みについて

梶返恭彦 (福岡市水道局計画部)

水源に恵まれない福岡市は二度の大渇水を経験し、市内ダム集水域私有林の取得や「福岡市水道水源かん養事業基金」の設置等により、水源地域の森林保全を行なうとともに、「水源林ボランティア育成事業」を立ち上げ、市民による森林整備活動などを積極的に推進している。市内水源林については、整備計画を作成し、森林GISを導入しながら長期に亘る効率的かつ一元的な管理を行っている。このように、市民に安全で安心して飲める水を安定的に供給するための施策の一つとして、今後とも市内をはじめ筑後川上流等水源森林の水源かん養機能の向上推進をより一層努めていく考えである。

6. 国営吉野ヶ里歴史公園古代の森復元のための植栽工法実験

鳥越昭彦（都市緑化技術開発機構）

太田 広（国営吉野ヶ里歴史公園事務所）

岡島桂一郎

（プラネットコンサルティングネットワーク）

薛 孝夫（九州大学大学院農学研究院）

国営吉野ヶ里歴史公園北部に位置する「古代の森」は弥生時代の人と自然との関わりを学ぶことのできる森として位置づけられ、弥生時代に成立していたと考えられる樹木の復元を目標としている。また、「古代の森」復元の基本的考え方は、①質の高い森の早期復元、②地域の森林資源の活用、③段階的な森の復元と育成、④植栽基盤の充実である。本実験の目的は、これらの考え方を具体化することができる総合的な技術の確立である。このため、現在国営吉野ヶ里歴史公園では、①生態移植、②根株移植、③表土移植、④山引き苗移植、⑤種子や種木等による苗生産と苗木植栽、に関する実験を行っている。

7. 南九州大学内の日本庭園改修工事について

中野功二・岩尾秋和・藤原孝志（九州林業㈱）

永松義博・日高英二（南九州大学環境造園学部）

南九州大学構内には造園学科創立時に作定された日本庭園がある。放置されていたため、護岸等は崩壊し、庭園としての美観が著しく損なわれている。今回、重機による掘削作業、池コンクリート打破、池底防水、石組作業、給排水設備などの改修工事をおこなった。日本庭園改修工事の概略を報告する。

8. 九州地方における古庭園群の地形特性

日高英二・永松義博（南九州大学環境造園学部）

九州地方に残る古庭園群の地形特性の検討を行った。調査対象としたのは江戸期以前に作庭された庭園が残る秋月庭園群・英彦山庭園群・柳川庭園群・鍋島庭園群・知覧庭園群の5ヶ所の庭園群である。1/25000の地形図を元に庭園群を中心とする4km四方の傾斜区分を行い、河川・水路などの地形特徴を含めた模式図を作成し、庭園の位置や形式・作庭時代を調べた。その結果、英彦山庭園群や作庭の古い池泉式庭園は湧水の豊富な地形変換点にあり、地形を利用していることが分かった。そのほかの庭園群は河川の蛇行部の平坦地に位置し、河川から引き入

れた水路を整備することで池泉式庭園が作庭されていた。

9. 甘木市秋月地区の水系と庭園の関係について

田島基記（翔陽高等学校）

田中 裕（伊万里農林高等学校）

永松大作（日本大学）

永松義博（南九州大学環境造園学部）

福岡県甘木市秋月地区は藩政期の町並みを残し、当時作庭された庭園が多く残っている。庭園の特徴を実測や現地調査によって明らかにした。地区内には生活用水のための水路が張り巡らされ、これを利用した池泉式庭園である。この水路および水路沿いの庭園は各戸で独立したのではなく水系網を形成し相互に結ばれている。

10. 地域における庭園文化の創造と育成について

後藤元一（札幌市立高等専門学校）

徳永 哲（エスティ環境設計研究所）

「旧三奈木黒田家庭園」は、代々福岡藩の筆頭家老職を務めた三奈木黒田家の御茶屋跡に残る庭園式庭園である。近世から近代にかけての歴史性や地域性を色濃く残し、県内でも有数の規模や景観を誇るなどから、平成11年に甘木市指定名勝となり、後世に継承していくこととなった。本庭園の保存活用にあたっては、この庭園がどのように使われていたのか、を理解した上で、「生きた庭」として機能する、訪れた人の感性を刺激する庭づくりを追求していくべきである。江戸初期の庭園として正確な復原は勿論のこと、その作業過程から作庭技術を学びながら。また、整備された庭園の活用等を通して甘木の庭園を中心とした庭園文化の構築を考えていくべきである。

11. 木造家屋の草屋根緑化に関する基礎的研究

岡部達也・重松敏則・藤井義久

（九州芸術工科大学芸術工学部）

民家のような小規模建築物を対象とした屋上緑化に関する研究は、主に荷重の問題から事例が少ないが、これが普及すると、緑の景観面や温暖化防止の効果に加え、都市におけるビオトープネットワークを形成する要素としての役割も期待できる。そこで本研究では木造の簡易家屋を実験対象として、草本

植物による屋根緑化の可能性をさぐる事を目的に行った。自然土壌と人工成型培土を用いた実験区での5ヶ月間の植生調査の結果、自然土壌での植物の成長頻度は、日照り等の気候の変化に左右されやすいのに対し、人工土壌はあまり影響を受けることがなく、夏期にも徐々に増加していく事が分かった。また、屋根緑化によって、温度が一定の範囲に安定し、高温化や低温化を軽減できる事が分かった。

12. アイランドシティ中央公園におけるデザインプロセスについてーデザインコンペの意義と実施設計段階での実践ー

徳永 哲 (エスティ環境設計研究所)

龍 靖則 (福岡市内都市整備局公園緑地部)

福岡市では、2002年の夏から秋にかけて、最も優れた計画案とその設計者を選ぶことを目的に「(仮称) アイランドシティ中央公園基本設計提案競技」が行われた。より質の高いランドスケープの創造に向けて、ランドスケープアーキテクトと建築家が協働して空間をつくり上げていくことの重要性は、近年の都市整備の場面においても繰り返し論じられてきた。本コンペの成果を、さらに昇華させるためには、アイランドシティのまちづくりが目指す「理想」とそれを実際に整備していく「現実」とをどのようにして結び合わせるか、トータルランドスケープ(全体景観)の視点から、いよいよ本格的に様々なコラボレーションに取り組んでいかなければならない。本稿では、その経過を振り返り、ランドスケープ分野におけるデザインコンペの意味を考える一助とした。

13. 急傾斜人工地盤における緑化工法の事例報告

石井ちはる (総合設計研究所)

龍 靖則・山口 綾 (福岡市公園緑地部)

西川誠二郎 (福岡市森と緑のまちづくり協会)

米田正人 (総合設計研究所九州事務所)

梶川昭則 (東邦レオ)

博多湾東部の人工島に整備されたアイランドシティ中央公園の建築屋上部における緑化工法の事例報告である。屋上部は3次元曲線面で複雑に変化し、傾斜角最大30°の約3300㎡の面積を緑化するには、整備課題として植栽基盤・植物の安定性確保、滞水・乾燥等の植物生育阻害等が考えられた。傾斜面

を再現したモックアップを用い、工法の比較、集中豪雨を想定した灌水試験等の試験施工を行い、状況等を観察して対応策を検証した。その結果をもとに基盤材と植物の飛散流出対策、植栽基盤の選択と土留め方法等を判断し施工した。竣工後の状態は概ね良好であるが、人工地盤上に生じた微地形の相違により植物の生長に影響を与えている部分が生じた。

14. 雨水利用の大規模修景池における水環境の事例報告

米田正人 (総合設計研究所九州事務所)

龍 靖則・中村純也 (福岡市公園緑地部)

藤井暁彦 (九州環境管理協会)

石井ちはる (総合設計研究所)

良好な地域環境の基盤となるアイランドシティ中央公園における雨水利用の修景池を整備した事例報告である。雨水利用の池は多様な環境が生まれ、人・生物・植物のネットワークを形勢し、本公園の循環型環境と共生の中心となる。修景池の規模はW.L面積1.24ha・水量5,800㎡、雨水流入区域は公園の約52%の面積6.7haより集水し、3,000㎡を地下貯留槽に貯え年間の補給水を行っている。平成16年5月から平成17年8月までの環境調査では水面・水辺・芝生地で新たに98種が自生し、動物調査では鳥類・陸生昆虫・水生生物で75種が確認された。緑化フェア開催後の整備工事以後に、落ち着いた環境が整うことで、植物・動物の種数が安定・定着することに期待する。

15. 造園と水車の接点

大石道義 (西日本短期大学造園科)

ヴェルサイユ宮殿造営において、水車はセーヌ川からの庭園用水の揚水・導水、並びにプチトリアンでの田園風趣の熟成(製粉用動力水車の庭園事業としての活用)の面で、造園と深く関与している。又、「石組園生八重垣伝」には、庭園用水の揚水施設として水車機構の図(高地水取工夫図)が仕様とともに記されている。これらの歴史的事例も踏まえ、造園家が考慮すべき造園と水車の接点として次の局面が考えられる。1. クリーンエネルギー・環境保全、2. 水扱い技術、3. 造園水源確保のための揚水手段、4. 造園修景事業、5. 体験遊具等へのポテンシャル6. 敷地計画の温故知新性、7. 地域資

源、エコミュージアム形成事業、8. 楽園イメージ性、他

16. 黒川温泉における景観づくりの取り組み

徳永 哲（エスティ環境設計研究所）

九州屈指の人気温泉観光地となった黒川温泉（熊本県南小国町）は、観光客の増加に伴い、歩行者の安全や快適性の問題、観光開発による自然環境への影響などが懸念されており、観光地としての黒川の特徴を維持するとともに、住民にとっても快適な生活環境を保全することが早急な課題となっていた。こうした状況から、地元では、自治会が中心となって全住民との協議を重ね、「景観づくり」を中心テーマに捉えた地域づくりに取り組んでいる。具体的には、「街づくり協定」をつくり、民家の土蔵修理の際の助成や、旅館の壁や屋根の色を黒、茶を基調とする色使いによる街なみの調和、また乱立していた看板を撤去し共同看板を設置、さらに敷地内に雑木を植栽するなど積極的に景観形成に努めてきている。

17. 公共空間における景観デザインの取り組みについて—佐賀市公共空間の景観デザイン指針の策定を通して—

木藤亮太・徳永 哲（エスティ環境設計研究所）

現在、佐賀市では景観づくりに向けた様々な取り組みが進められている。城内地区の景観問題への対応やその後の取り組みなどに見られるように、行政の意思決定や担当職員のサポート、市民や専門家との共同体制など、景観づくりへの関わり方として、先進的ともいえる取り組みが始まりつつある。さらに、それらを継続的に実施していくための様々な方策について、行政内部で多く議論がなされており、今後の展開について非常に期待が持てる。本稿では、佐賀市において進められている「公共空間を対象とした景観デザイン指針に関する取り組み」において、その課題の中心となった庁内での景観デザイン検討プロセスの重要性について報告した。

18. 長門市仙崎地区におけるアダプト・プログラムについて

亀野辰三（大分工業専門学校）

熊野 稔（徳山工業高等専門学校）

近年、アダプト・プログラム（以下、AP）を導入して道路美化を行う団体が急増している。しかし、導入が進むAPに関して、その効果や評価に関する研究事例はほとんど見られない。そこで、本研究では花の管理にAPを導入して活発な活動を展開し、数々の受賞に輝く「みずゝいっこと花壇」（長門市仙崎地区）を取り上げ、活動に参加する住民の意識調査を通じてAPの効果や評価を分析した。その結果、APへの参加満足度に関して、「満足」との回答は6割弱に止まり、その形成要因も、「道路の美化」それ自体よりも、その結果得られる心理的な喜びが重要視された。また、サインボードには、「活動に励みとなる効果」があることが明らかになった。

19. 鹿児島県沖永良部島の土地利用変遷から見た新たな島嶼景観の可能性

鬼頭直美・重松敏則（九州大学大学院芸術工学府）

近年、ヒトと自然環境の関わりを深く表し、地域固有の環境資源、観光・リゾート資源を持った地域景観として、農村景観が注目され始めている。そこで、島嶼特有の景観を持ち、農業の盛んな鹿児島県沖永良部島を対象地として、各時代の土地利用図を読み取り、島の変遷を検討することで、今後の持続的な生産活動と自然および景観保全の両立を図った。その結果、1974年前後に起こった急激な島の経済成長が、自然環境や景観を劇的に変化させ、現在ではその発展も飽和状態であることがわかった。その解決策の1つとして沖永良部島グリーン・ツーリズムをとりあげ、島に現存する負の要素を環境活動という形によって、島の活性化に役立てることを提案した。

20. 名勝史跡「坊津」にみる「坊津八景」の景観的意義とその保全条件に関する研究

石田尾博夫・包清博之
（九州大学大学院芸術工学府）

南九州でも江戸時代、薩摩・大隅・日向三ヶ国の名所・旧跡・神社・仏閣を網羅した地理志『三国名勝図会』（1843）において、近衛信輔が南薩摩の「坊津八景」を詠んだと伝えられる和歌と絵図、地域の景観的な特徴が紹介されている。坊津八景は史実としての記述があるものの、具体的な場所がこれまで特定されないまま、放置されてきた。本稿では、

一般的に言われる坊津八景の自然的歴史的価値を確認し、その位置を具体的に固定するとともに、その植生・地質上の特性の把握を通じて、景観形成上の意義を明らかにし、その適切な保全計画のための諸課題を明らかにすることを目的とした。これらの調査研究を踏まえ、坊津八景の自然景観の意義と、文化財としての保全の必要性を明らかにした。

21. 英国の景観保全制度とボランティア活動

朝廣和夫（九州大学芸術工学研究院）

景観保全制度を1940年代から取り入れた英国の景観自然美観地区（AONB：Arou of Ourstanding Natural Beauty）について、ケント県を事例に、制度と運用、そしてボランティア活動の状況を報告した。なお、英国全体の制度概要については辻らの研究を引用し、他の文献や現地調査を用い取りまとめた。その結果、次の3つ強い関係性について示唆を得た。①景観保全は主に厳しい許可制度の運用により担保されている。②計画図書は最新の法体系とリンクされ、その実現のための助成制度が運用されている。③景観の保全・強化のために、ボランティア団体と協働型事業が展開されている。



花の万博
から15年



花と緑のおおさか 国際シンポジウム

花と緑が彩るライフスタイル
Life Style ~花博が創るもの~

※ 基調講演

「花と緑の文化に着目したまちづくり」

ディビット・オーデイス氏 (Mr. David Aldous)

メルボルン大学客員教授 ※総合討論にコメンテーターとして参加

※ 総合討論

- コーディネーター / 須磨 佳津江氏 (キャスター・ジャーナリスト)
- パネリスト / プラサート・アヌン氏 (Mr. Prasert Anupunt)
タイ王国国際園芸博覧会 関係者
ローヤルフローラ・ラーチャブルック2006
- 増田 昇氏 (大阪府立大学大学院教授)
- 長村 智司氏 (大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校校長)
- 遠藤 尚美氏 (フロリスケープディレクター)

日時 平成18年3月26日(日) 13:30~16:30

【開場/13:00】

会場 大阪歴史博物館 講堂 [大阪市中央区大手前4丁目1-32]

参
加
料
無

定員 250名 [先着順。後日参加証をお送りします。]

申込方法

申込希望の全ての方について以下の項目を記入の上、はがき、FAX、インターネットからお申込みください。①国際シンポジウム
②氏名(ふりがな) ③年齢 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号
※お申込みいただいた個人情報は厳重な管理の上、当シンポジウム運営以外の目的で使用することはありません。

申込先・問合せ先

(財)国際花と緑の博覧会記念協会「国際シンポジウム」係
■はがき 〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-136
■TEL 06-6915-4516 ■FAX 06-6915-4524
■インターネット [H P] <http://www.expo90.jp/>
[E-mail] kikaku-15@expo90.jp



主催/ (財)国際花と緑の博覧会記念協会 共催/ 第23回全国都市緑化おおさかフェア実行委員会
後援/ 農林水産省、国土交通省、大阪府、大阪市、(財)都市緑化基金、NHK大阪放送局、(社)日本造園学会、
園芸学会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞大阪本社、産経新聞社、日本経済新聞社 (予定)



開場案内図

大阪歴史博物館
(講堂)

大阪市中央区大手前4丁目1-32
TEL:06-6946-5728

アクセス

地下鉄谷町線・中央線
「谷町四丁目」駅下車
9号出口 駅前
市営バス「馬場町」バス停前